

地域再生とまちづくり

各都市が目指すものは

<第39回>

中央区は銀座、八重洲、日

本橋などの日本を代表する高度商業地から月島・勝どきといった臨海部までを包含している。20年東京五輪パラリンピックでは臨海部の晴海に選手村の建築が予定され、環状2号線上で計画されているバス高速輸送システムによって選手を都心や臨海部に運ぶことが想定されている。都心への優れたアクセスと五輪の相乗効果で臨海部には大型のタワーマンションの建設が相次

定住人口目標は達成

国勢調査によると、中央区の10年から15年までの人口増加率は15・0%と、全国一だつた00〜05年の35・7%に比べ鈍化したものの依然として高い増加率を見せた。都内では10%以上増加したのは中央区のほか千代田、港、台東の3区しかなく、東京都の平均2・7%増に比べると高い水準にある。そんな中央区もかつては人口減少に悩んでいた。戦後間もない53年に17・1万人のピークを迎えた後は減少を続け、81年は8・2万人まで減少した。88年に矢田美英区長が「定住人口10万人」の目標を掲げ、人口の増加を区政の重点施策に位置づける。具体的には、ウォータフロントの再開発をはじめ、定住性の高い住宅を設けることで容積率を緩和する



高速道路に覆われた現在の日本橋

水辺の特性生かす

中央区には川が多く、水域の面積は23区内で最も大きい。ウォータフロントの再開発が行われ、隅田川では従来のコンクリートの直立堤防に替わるスロープ堤防事業が進み、佃公園、石川島公園、新川公園、明石町河岸公園など、公園と公開空地の一体的整備やテラスの整備による新しい快適な水辺空間が誕生した。現在、晴海地区などでは水辺の立地を生かした再開発事業が進められ、隅田川や日本橋川、亀島川、朝潮運河などでは水辺を利用した地元やNPOなどによる活動も行われている。このように中央区の水辺は都市の中の貴重なオープンスペースとしてだけでなく、様々な魅力を兼ね備えた潤い空間として見直され、再び人々の期待を集めている。(日本不動産研究所本社事業部、不動産鑑定士・阿部進悦)

東京都中央区・五輪後を意識した取り組み

街並み誘導型地区計画、中高層住宅の建設や住宅の共同化の促進を図る誘導・助成の推進、区立住宅の拡充などだ。その結果、17年1月時点の定住人口は14万人を超え、当初の目標は十分に達成した。

中央区は15年に「2020年に向けた中央区の取組」を策定し、スポーツ、国際教育・交流、観光・文化、防犯・防災、まちづくりの5つの分野について将来ビジョンを示した。

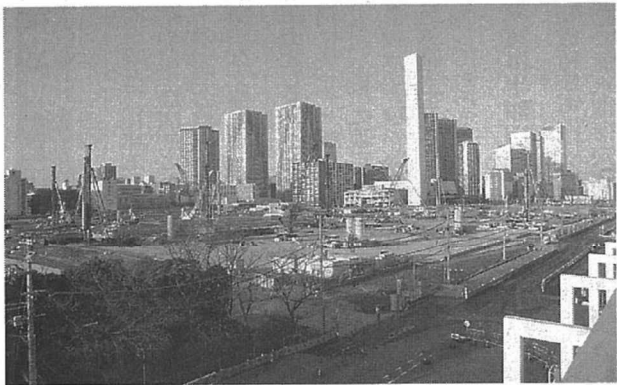
「まちづくり」に関して「スマートシティ構想のほか、五輪後を意識して晴海

街並み誘導型地区計画、中高層住宅の建設や住宅の共同化の促進を図る誘導・助成の推進、区立住宅の拡充などだ。その結果、17年1月時点の定住人口は14万人を超え、当初の目標は十分に達成した。

臨海部の機能拡充へ

晴海、日本橋など開発相次ぐ

晴海地区の20年五輪パラリンピックの選手村建設予定地



街並み誘導型地区計画、中高層住宅の建設や住宅の共同化の促進を図る誘導・助成の推進、区立住宅の拡充などだ。その結果、17年1月時点の定住人口は14万人を超え、当初の目標は十分に達成した。